

災害時支援の新たなターゲットとしての 生活機能

- 災害時の「特別の配慮を必要とする状態」と
災害を契機とした新たな生活機能低下の「予防」 —

(独)国立長寿医療研究センター 研究所
生活機能賦活研究部
大川弥生

I. 災害を契機とした「生活機能」低下「予防」の必要性

- ・ 特に高齢者では**生活不活発病**(廃用症候群)に注意。
- ・ 「予防」の重視: 低下者への補完(手助け)中心ではなく。
- ・ 「災害だから」「年だから」、「悪くなるのは仕方ない」ではない。

II. 「特別の配慮を必要とする状態」の具体像について、**支援者が「共通認識」をもつ**

- ・ A. 「**健康状態(病気・ケガ等)**」について配慮が必要な状態 + B. 「**生活機能**」について配慮が必要な状態。
両者を同時にもつ人が多い ⇒ 両者への同時関与が必要
- ・ 「配慮すべき内容」と関連づけて「特別の配慮を必要とする状態」を知る。
- ・ 遠慮、あきらめ、自覚していない人も多い ⇒ **積極的な対象者発見**が必要(**状態把握チェックシート**等で)

III. 支援の内容において生活機能への配慮を重視

- ・ **防災担当者**は**集団的支援**のキーパーソン。
- ・ 本人・家族、**ボランティア**、**一般市民の積極的関与**が不可欠。(医療、保健、介護、福祉だけでは不十分)

IV. 災害時の支援は、**平常時の支援**(のよい面、わるい面)が顕著にでる

- ・ 平常時から高齢者・生活機能低下者(障害者等)への適切な配慮が必要。
- ・ 平常時の専門的関与(医療、介護職、ケアプラン等)の中に、災害等非日常的事態への支援も含める。

V. 災害時の生活機能面への対策の**啓発と知見の集積**

- ・ 平常時の専門的知識・技術を災害・防災に積極的に生かすことが必要(防災の特殊性もそれをふまえて明確にする)。
- ・ 基礎的内容は、**全国共通の認識**にたつ。(状況把握チェックシート、マニュアル、被災地配布資料、等)
⇒ 他地域からの支援者も共通の認識からスタートでき、効果的な支援ができる。
被災後省庁通知等をうけた後の開始では遅い。理解不十分な危険もある。
- ・ 災害時知見の専門的分析と集積: 今後に向けた**課題・反省点**を明らかにし、災害毎の検証を。

災害時の生活機能低下の実態(1)－回復困難な歩行困難の発生

非要介護認定者の約3割に災害後に歩行困難が生じ、そのうち4割弱(全体の1割強)が6ヵ月後にも回復していなかった。

歩行状態の変化(新潟県中越地震:2004.10)

非要介護認定高齢者 N=1626
長岡市避難勧告地域:回収率86.6%

地震の影響		
地震前より改善	N=	7 (0.4%)
変化なし		1093 (67.2%)
屋外歩行が難しくなった		396 (24.4%)
室内歩行も難しくなった		100 (6.2%)
回答なし		30 (1.9%)
		30.6%
地震前に戻ったか?		
戻った		172 (10.6%)
戻ったが雪の影響で再度低下		129 (7.9%)
戻っていない		179 (11.0%) ← 内:
回答なし		16 (1.0%)
		36.1%

[協力:長岡市、長岡地域振興局健康福祉環境部]

災害時の生活機能低下の実態(2)－生活の不活発化が大きく影響

高齢者の生活機能低下の原因として、地震後の日常活動性低下(生活の不活発化)が大きく影響しており、**生活不活発病**(廃用症候群)による可能性が大きいことが示唆された。

高齢者の歩行状態の回復(新潟県中越地震:2004.10)

－ 影響する因子 －

	B	Odds Ratio	95.0% CI		<i>p</i>
性別	-0.16	0.85	0.59	~ 1.22	0.3889
年齢	0.59	1.81	1.26	~ 2.60	0.0013
要介護認定	1.00	2.73	1.63	~ 4.52	0.0001
日中活動性低下	2.11	8.26	5.55	~ 12.41	<0.0001
屋外歩行:地震前	0.50	1.65	0.92	~ 2.90	0.0890
自宅内歩行:地震前	0.68	1.98	0.86	~ 4.40	0.1002
仮設住宅入居	0.25	1.29	0.83	~ 1.98	0.2570
避難所利用	-0.01	0.99	0.69	~ 1.43	0.9749
地震後の病気・けが	0.64	1.90	1.23	~ 2.90	0.0035

災害時の生活機能低下の実態(3)－豪雪でも発生

地震以外の災害として、豪雪でも生活不活発病による高齢者の生活機能低下が発生している。

地震以外の様々な災害でも生活が不活発化する可能性は大きく、「生活不活発病」の予防に注意する必要がある。

歩行状態の変化(平成18年豪雪)

65歳以上N=3,746(回答率90.4%)
富山県南砺市特別豪雪地帯

		非要介護認定者	要介護認定者
豪雪前より改善		31名(1.0%)	26名(3.9%)
変化なし		2,254名(73.3%)	265名(39.4%)
低下	全低下者	639名(20.8%)	251名(37.3%)
	内: 低下後回復	341[11.1%]	103[15.3%]
	戻っていない	231[7.5%]	134[19.9%]
	非回答	67[2.2%]	14[2.1%]
歩行していない		28名(0.9%)	101名(15.0%)
非回答		121名(3.9%)	30名(4.5%)
計		3,073名(100%)	673名(100%)

歩行状態の変化(平成18年豪雪)

－ 影響する因子 －

	B	Odds Ratio	95.0% CI	p
性別	0.429	1.54	1.15 ~ 2.04	0.004
年齢	0.302	1.35	1.09 ~ 1.68	0.006
要介護認定	0.119	1.13	0.71 ~ 1.78	0.609
大雪が影響した病気やけが	1.181	3.26	1.92 ~ 5.53	<0.0001
今冬期の日中活動性低下	3.096	22.12	16.54 ~ 29.58	<0.0001
毎冬の歩行低下	0.589	1.80	1.27 ~ 2.57	0.001
毎冬の身の回り行為低下	0.438	1.55	0.98 ~ 2.46	0.063
屋外歩行:豪雪前	0.209	1.23	1.02 ~ 1.49	0.028
屋内歩行:豪雪前	-0.271	0.76	0.56 ~ 1.04	0.089
身の回り行為:豪雪前	0.182	1.20	0.99 ~ 1.45	0.062
対人関係:豪雪前	0.039	1.04	0.71 ~ 1.53	0.842
地域参加:豪雪前	0.217	1.24	0.97 ~ 1.60	0.088
外出回数:豪雪前	0.086	1.09	0.90 ~ 1.32	0.375
日中活動性:豪雪前	-0.109	0.90	0.73 ~ 1.11	0.313

[協力:南砺市、富山県]

災害時の生活機能低下の実態(4)ーリスク因子としての「限定的自立」

生活機能低下を生じ易いリスクとして、**自立していても「限定的自立」**者では注意。

※限定的自立: 自宅やその周辺(施設入所者は施設内)など限られた生活環境でのみの自立。

歩行状態の変化(新潟県中越地震:2004.10)

ー 地震前の屋外歩行状況との関係 ー

非要介護認定高齢者

地震前屋外歩行		改善	不変	低下	計
自立	(普遍的自立) 遠くへも一人で	4 0.4%	859 79.8%	214 19.9%	1077 100%
	(限定的自立) 近くであれば一人で	3 0.7%	203 47.7%	220 51.6%	426 100%
誰かと一緒であれば		0 0%	11 32.4%	23 67.6%	34 100%
歩いていない		0 0%	17 42.5%	23 57.5%	40 100%
計		7 0.4%	1090 69.1%	480 30.4%	1577 100%

χ^2 値=183.3 P < 0.005

災害時の生活機能低下の実態(5)－早期発見・早期支援の必要性

「生活不活発病チェックリスト」(10ページ)を使用して、生活不活発病早期発見を実施。

一般避難所は、発生2週間以内、在宅は4週間以内に終了(低下者には保健師が訪問指導)。

発生後短期間で低下している者が多い ⇒ 早期発見・早期支援必要

「活動」の変化(能登半島地震:2007.3)

－低下者:年齢別－

輪島市門前地区高齢者 N=1,480

活動項目 年齢	一般避難所			在宅		
	65-74 (N=55)	75-84 (N=82)	85- (N=39)	65-74 (N=562)	75-84 (N=564)	85- (N=172)
屋外歩行	4 7.3%	6 7.3%	4 10.3%	3 0.5%	6 1.1%	5 2.9%
屋内歩行	0 0.0%	7 8.5%	3 7.7%	4 0.7%	9 1.6%	6 3.5%
身の回り 行為	2 3.6%	8 9.8%	4 10.3%	5 0.9%	9 1.6%	8 4.7%
上記1項目 以上低下者	6 10.9%	16 19.5%	8 20.5%	9 1.6%	16 2.8%	10 5.8%

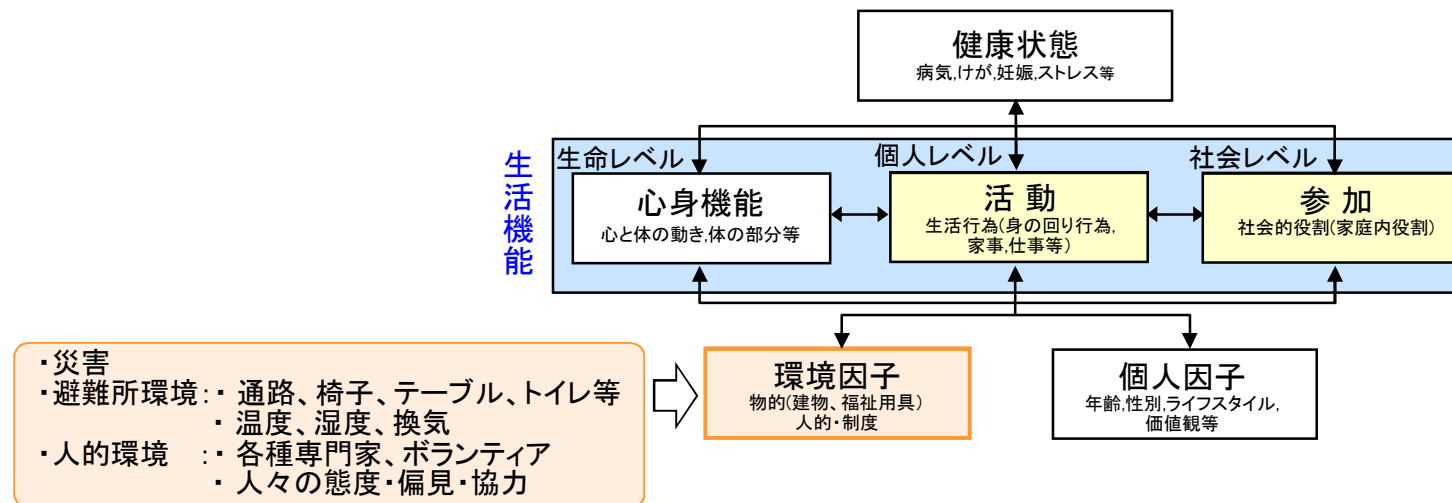
[協力:輪島市]

「生活機能」—災害時の新たなターゲット

ICF※(WHO 国際生活機能分類、2001)

- ・「人が生きることの全体像」についての「共通言語」
- ・生活機能モデル(下図)を基本骨格とし、コードと評価点がある

※ ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health



○ 災害・災害時支援は「環境因子」

- ・生活機能の3つのレベルのどこのどの項目に影響しているかをみる。効果判定も同様に
- ・支援の質・専門性が問われる。
- ・他のより良いサービスはないか？連携すべきものがないか、を考える。

[例] バリアフリー: ある環境因子は一人ひとりの、一つひとつの活動毎でバリア(「阻害因子」)にもなり、バリアフリー(「促進因子」)にもなる(車いす使用者に適することだけがバリアフリーではない。やっと立って歩ける人にはマイナスになることが少なくない。)

生活不活発病－災害時の生活機能低下の原因

- **生活不活発病(廃用症候群)**とは、
「生活が不活発」なことによって生じる全身のあらゆる心身機能の低下(表参照)

生活不活発病 (心身機能低下の例)

I. 体の一部に起こるもの	II. 全身に影響するもの	III. 精神や神経の働きに起こるもの
1. 関節拘縮 2. 廃用性筋萎縮・筋力低下 3. 廃用性骨萎縮 4. 皮膚萎縮(短縮) 5. 褥瘡 6. 静脈血栓症 →肺塞栓症	1. 心肺機能低下 2. 起立性低血圧 3. 消化器機能低下 a. 食欲不振 b. 便秘 4. 尿量の増加 →血液量の減少(脱水)	1. うつ状態 2. 知的活動低下 3. 周囲への無関心 4. 自律神経不安定 5. 姿勢・運動調節機能低下

- 災害時には生活不活発病が多発 ⇒ 生活機能全体が低下
災害直後だけでなく、中・長期にわたり進行(「生活機能低下の悪循環」)
- 原因は「生活の不活発化」: **生活が不活発なら必発**
・ 病気・外傷と関係なしに「環境因子」の変化だけで生じる
- 「心身機能」よりも「活動」(生活行為)の低下が先に顕在化

生活不活発病ー予防・改善の鍵は「生活の活発化」

○ 予防改善の鍵は「生活の活発化」ー 「**活発な生き生きとした生活**」を

(1) 生活行為(「活動」)の向上:「質」(自立度ややり方)と「量」(回数など)

質:活動自立訓練、**よくする介護**

(不適切・過剰な、介護サービスや車いす偏重などは生活不活発病を加速)

(2) 家庭・地域での役割(「参加」)の向上

<注> 生活不活発病の個々の症状(筋力低下など)の改善や、「できるだけ体を動かさない」ではない。

<注> **安静には害もある**:「**病気の時は安静第一**」「年だから無理をしない」などの**思い込み**を変えることが大事。

「生活が不活発化」した原因

- ・ 災害が直接に生活不活発病を起こし、「災害だから仕方がない」というものではない。
- ・ なぜ「生活が不活発」になったのかを考えて、生活を**活発にさせる手がかりの発見**を。

- <例>
1. **環境の大変化**のために動けない人 : 家の中が散乱したり、周囲の道が危なくて歩けない
避難所で通路が確保されておらず歩きにくい
つかまるものがないので立ち上がりにくい、など
 2. **することがない**ので動かない人 : 自宅での役割(家事・庭いじり、など)がなくなった
地域での付き合いや行事がなくなった、など
 3. 「**動かないように**」と**抑制**されている人: 家族の「危ないから動かないで」
している人 「まわりの人に迷惑になるから動かないで」
ボランティアの「自分達がやりますから」
「災害時に散歩やスポーツをするなんて」と思われそう

生活不活発病の早期発見・早期対応ーチェックリスト

生活不活発病チェックリスト

下の①～⑥の項目について、
地震前 (左側)と **現在** (右側)のあてはまる状態に印をつけてください。

地震前	現在
① 屋外を歩くこと	
<input type="checkbox"/> 遠くへも1人で歩いていた <input type="checkbox"/> 近くなら1人で歩いていた <input type="checkbox"/> 誰かと一緒なら歩いていた <input type="checkbox"/> ほとんど外は歩いていなかった <input type="checkbox"/> 外は歩けなかった	<input type="checkbox"/> 遠くへも1人で歩いている <input type="checkbox"/> 近くなら1人で歩いている <input type="checkbox"/> 誰かと一緒なら歩いている <input type="checkbox"/> ほとんど外は歩いていない <input type="checkbox"/> 外は歩けない
② 自宅内を歩くこと	
<input type="checkbox"/> 何もつかまらずに歩いていた <input type="checkbox"/> 壁や家具を伝って歩いていた <input type="checkbox"/> 誰かと一緒なら歩いていた <input type="checkbox"/> 這うなどして動いていた <input type="checkbox"/> 自力では動き回れなかった	<input type="checkbox"/> 何もつかまらずに歩いている <input type="checkbox"/> 壁や家具を伝って歩いている <input type="checkbox"/> 誰かと一緒なら歩いている <input type="checkbox"/> 這うなどして動いている <input type="checkbox"/> 自力では動き回れない
③ 身の回りの行為(入浴、洗面、トイレ、食事など)	
<input type="checkbox"/> 外出時や旅行の時にも不自由はなかった <input type="checkbox"/> 自宅内では不自由はなかった <input type="checkbox"/> 不自由があるがなんとかしていた <input type="checkbox"/> 時々人の手を借りていた <input type="checkbox"/> ほとんど助けてもらっていた	<input type="checkbox"/> 外出時や旅行の時にも不自由はない <input type="checkbox"/> 自宅内では不自由はない <input type="checkbox"/> 不自由があるがなんとかしている <input type="checkbox"/> 時々人の手を借りている <input type="checkbox"/> ほとんど助けてもらっている
④ 車いすの使用	
<input type="checkbox"/> 使用していなかった <input type="checkbox"/> 時々使用していた <input type="checkbox"/> いつも使用していた	<input type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 時々使用 <input type="checkbox"/> いつも使用
⑤ 外出の回数	
<input type="checkbox"/> ほぼ毎日 <input type="checkbox"/> 週3回以上 <input type="checkbox"/> 週1回以上 <input type="checkbox"/> 月1回以上 <input type="checkbox"/> ほとんど外出していなかった	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日 <input type="checkbox"/> 週3回以上 <input type="checkbox"/> 週1回以上 <input type="checkbox"/> 月1回以上 <input type="checkbox"/> ほとんど外出していない
⑥ 日中どのくらい体を動かしていますか	
<input type="checkbox"/> 外でもよく動いていた <input type="checkbox"/> 家の中ではよく動いていた <input type="checkbox"/> 座っていることが多かった <input type="checkbox"/> 時々横になっていた <input type="checkbox"/> ほとんど横になっていた	<input type="checkbox"/> 外でもよく動いている <input type="checkbox"/> 家の中ではよく動いている <input type="checkbox"/> 座っていることが多い <input type="checkbox"/> 時々横になっている <input type="checkbox"/> ほとんど横になっている
次のことはいかがですか？	
⑦ 地震の前より、歩くことが難しくなりましたか？	
<input type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 難しくなった	
⑧ ほかに、難しくなったことはありますか？	
<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → <input type="checkbox"/> 和式トイレをつかう <input type="checkbox"/> 段差(高い場所)の上り下り <input type="checkbox"/> 床からの立ち上がり <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入を:)	
氏名	(男・女、才) 月 日現在

*このチェックリストで、赤色の (一番よい状態ではない)がある時は注意してください。
 *特に**地震前** (左側)と比べて、**現在** (右側)が1段階でも低下している場合は、早く手を打ちましょう。

- 特徴:
- ・ チェックすることで、配慮すべき内容が明らかになる
 - ・ 専門家でなく、本人・家族でも可能性・リスク判断可能

ソフトウェア

1. 入力形式:
タッチパネル入力とキーボード入力併用可
2. 機能:
 - 1) 個人毎の把握
 - (1) 生活不活発病発生状況
 - (2) 生活不活発病発生のリスク発見
 - ・ 災害前からの状況
 - ・ 災害後変化
 - (3) 対応すべき項目把握
 - 2) 集団的把握(避難所単位、自治体単位、等)
⇒ 専門的支援の必要性・緊急性判断
 - 3) 経時的な変化の把握
3. 生活不活発病の発生状況のリスク判定基準(全8段階)
 - 発生・リスクあり(7段階)
 - ・ 災害前より既に生活不活発病の可能性あり+災害時増悪
 - ・ 災害後生活不活発病発生の可能性あり
 - ・ 発生のリスクあり、等
 - 改善
災害前よりも向上

アンケート入力画面1ヘッダ情報：フォーム

生活不活発病チェック入力画面(1)

入力日 2009/05/24

氏名 ササキ
* 半角カタカナで入力して下さい

生年月日 S04/05/11 ←和暦 西暦→ 1929/05/11
* 入力例(S10/01/01)

性別 男性 女性

大項目 地震

アンケート> キャンセル

アンケート入力画面2詳細：フォーム

生活不活発病チェック入力画面(2)

入力日 2009/05/24 項目 地震

氏名 ササキ 生年月日 S04/05/11 性別 女性

地震前 現在

屋外を歩くこと

<input type="checkbox"/> 遠くへも1人で歩いていた <input checked="" type="checkbox"/> 近くなら1人で歩いていた <input checked="" type="checkbox"/> 誰かと一緒に歩いていた <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど外は歩いていなかった <input checked="" type="checkbox"/> 外は歩けなかった	<input type="checkbox"/> 遠くへも1人で歩いている <input checked="" type="checkbox"/> 近くなら1人で歩いている <input checked="" type="checkbox"/> 誰かと一緒に歩いている <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど外は歩いていない <input checked="" type="checkbox"/> 外は歩けない
--	--

登録 キャンセル

帳票選択画面：フォーム

帳票選択画面

項目 地震 入力日 ~

氏名 生年月日 ~

大項目	氏名	入力日	生年月日	印刷
地震	ササキ	2009/05/24	S04/05/11	印刷

キャンセル

帳票選択画面：フォーム

帳票選択画面

項目 地震 入力日 ~

氏名 生年月日 ~

大項目	氏名	入力日	生年月日	印刷
地震	仆	2008/08/17		印刷
地震	カトウ	2008/08/17	M32/01/01	印刷
地震	タカ	2008/08/17	T04/05/08	印刷
地震	ササキ	2008/08/17	T04/05/13	印刷
地震	ワダ	2008/08/17	T12/07/22	印刷
地震	ヤマト	2008/08/17	T12/12/30	印刷
地震	サウ	2008/08/17	S03/03/03	印刷
地震	ミノ	2008/08/17	S10/08/19	印刷
地震	ワダ	2008/08/17	S19/09/18	印刷

キャンセル

生活不活発病の早期発見・早期対応

ー 平常時からの知識、防災担当・ボランティアの積極的関与

生活不活発病予防については大規模地震では発生当日に厚労省通知がでている。

- 災害時実行に必要なこと
- ・ **平常時から**の生活不活発病、生活機能についての知識・技術。
 - ・ **集団的対応**としての対策(防災担当)。
 - ・ **本人、ボランティア、市民**の理解。

【厚労省通知】

- H16.10.23 新潟県中越地震
発生21日目:生活不活発病予防通知(専門家向)
31日目: " (本人向)
- H17. 3.20 福岡県西方沖地震
4日目: 同上(専門家向、本人向)
- H19. 3.25 能登半島地震
2日目: 同上(含:チェックリスト、予防マニュアル)
- H19. 7.16 新潟中越沖地震
当日: 同上(含:チェックリスト、予防マニュアル)
5日目: 啓発チラシ及びポスター(避難者用)
9日目: " (在宅被災者用)
- H20. 6.14 岩手・宮城内陸地震
当日: 同上(**高齢者以外**に範囲拡大)
(含:チェックリスト、予防マニュアル)

【内閣府】

- H 17.8 中山間地等の防災対策に関する検討会報告書
ー 高齢者の生活機能低下(生活不活発病)予防

能登半島地震での取り組み(H19)

- 3月25日 地震発生
- 発生2日目 厚生労働省より 石川県等あて通知
避難生活に伴う廃用症候群の発症予防
(含:「生活不活発病チェックリスト」
「生活機能低下予防マニュアル」)
- 3日目 生活不活発病予防への取り組み開始
輪島市で保健師を核と位置づけ、
責任者: 地元医師会会長、県等の協力のもと
- 6日目 生活不活発病チェックリスト開始(避難所、在宅)
⇒低下者への指導(保健師)
- 発生25日目 ・市主催:生活不活発病の予防と地域づくり
セミナー(一般市民用啓発リーフレット)
・生活不活発病専門職研究会(医療・介護・保健)

※途中:メディアによる啓発:NHKクローズアップ現代・ニュース
朝日新聞号外

特別な配慮が必要な人—「健康状態」と「生活機能」の両面から

A. 健康状態について配慮が必要な状態

I. 災害発生前から、健康状態上管理が必要な場合

- ・病気のある人
(生命維持に直結する機器<人工呼吸器、人工透析、在宅酸素療法等>が必要
薬物治療中
食事療法中
運動療法中等)
- ・妊婦
- ・新生児、乳児
- ・環境管理が必要な人
(頸髄損傷で体温調整が困難な人、アレルギー疾患・素因のある場合等) 等

II-1. 災害でケガをした場合

II-2. 災害を契機に新たな疾患が発生、顕在化する場合

- ・PTSD
- ・アルコール依存症 等

III. 災害を契機とした疾患出現の「予防」が必要な場合

- ・生活不活発病のリスクが高い人
- ・高齢者(予備力が低下している) 等

B. 生活機能面について配慮が必要な状態

I. 日常生活活動低下

1. 介護を受けている場合
2. 「限定的自立」の場合(自宅など日常の生活範囲でのみ自立)

II. 要素的活動低下

1. コミュニケーションに困難のある場合
(視覚障害、聴覚障害、失語症、知的障害、認知症、高次脳機能障害等)
2. 判断能力に困難のある場合
(知的障害、精神障害、認知症、高次脳機能障害等)
3. 集団行動の遂行に困難がある場合:パニックを生じる、騒ぐ、同じペースで行動できない等
(精神障害、発達障害、知的障害、認知症、高次脳機能障害等)
4. 移動に困難のある場合:歩行や立ちしゃがみ困難等
(足のまひ等)
5. 腕、手に不自由がある場合
6. 耐久性が低い場合
(呼吸器障害、心臓疾患、慢性疾患、体力低下等)

覚えるには・・・

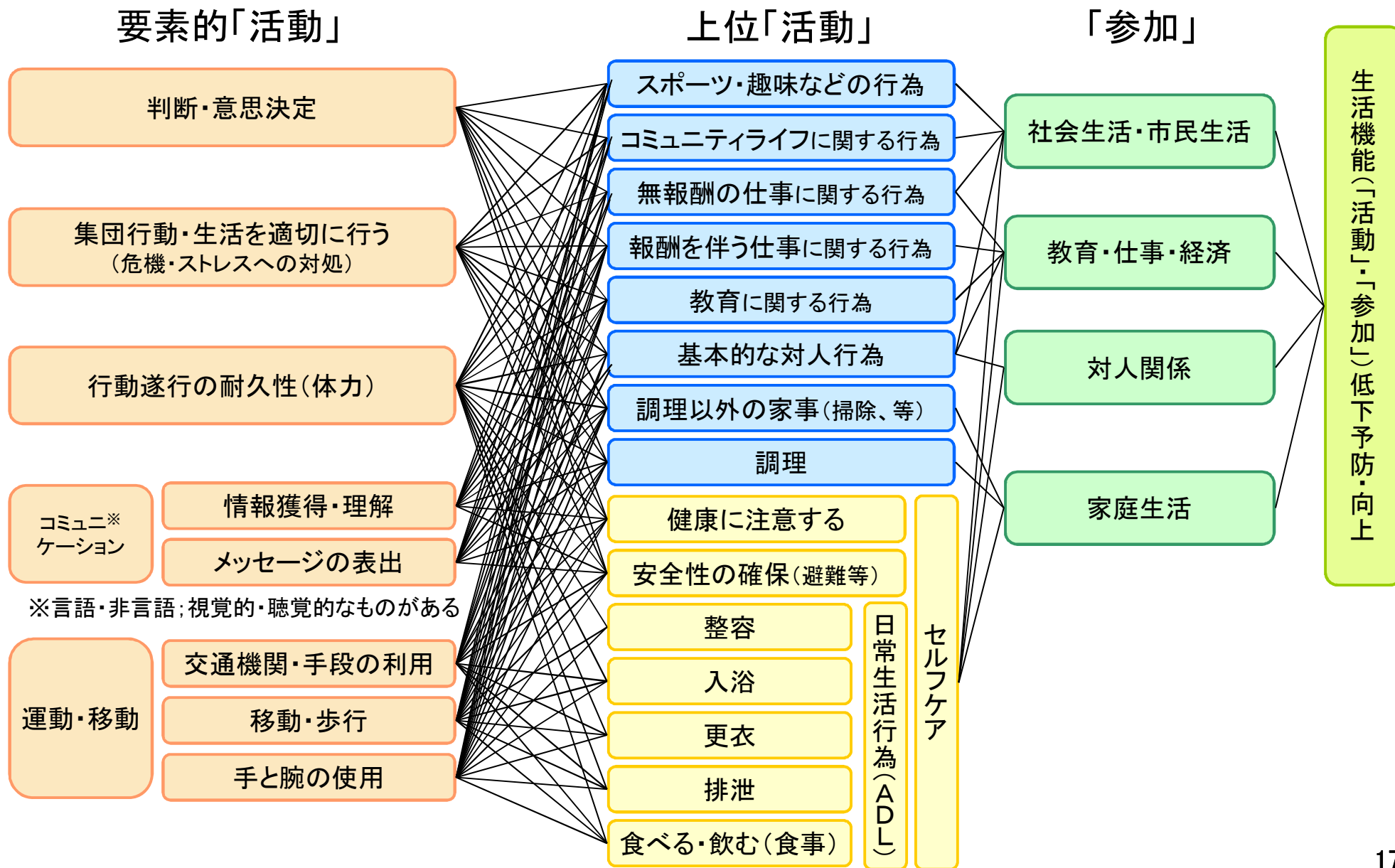
「コミュニケーション」をとって「判断」し、「集団生活を送る」には
「手」「足」だけでなく「疲れやすさ」も考慮する。

特別な配慮が必要な人－配慮を必要とする「状態」からとらえる

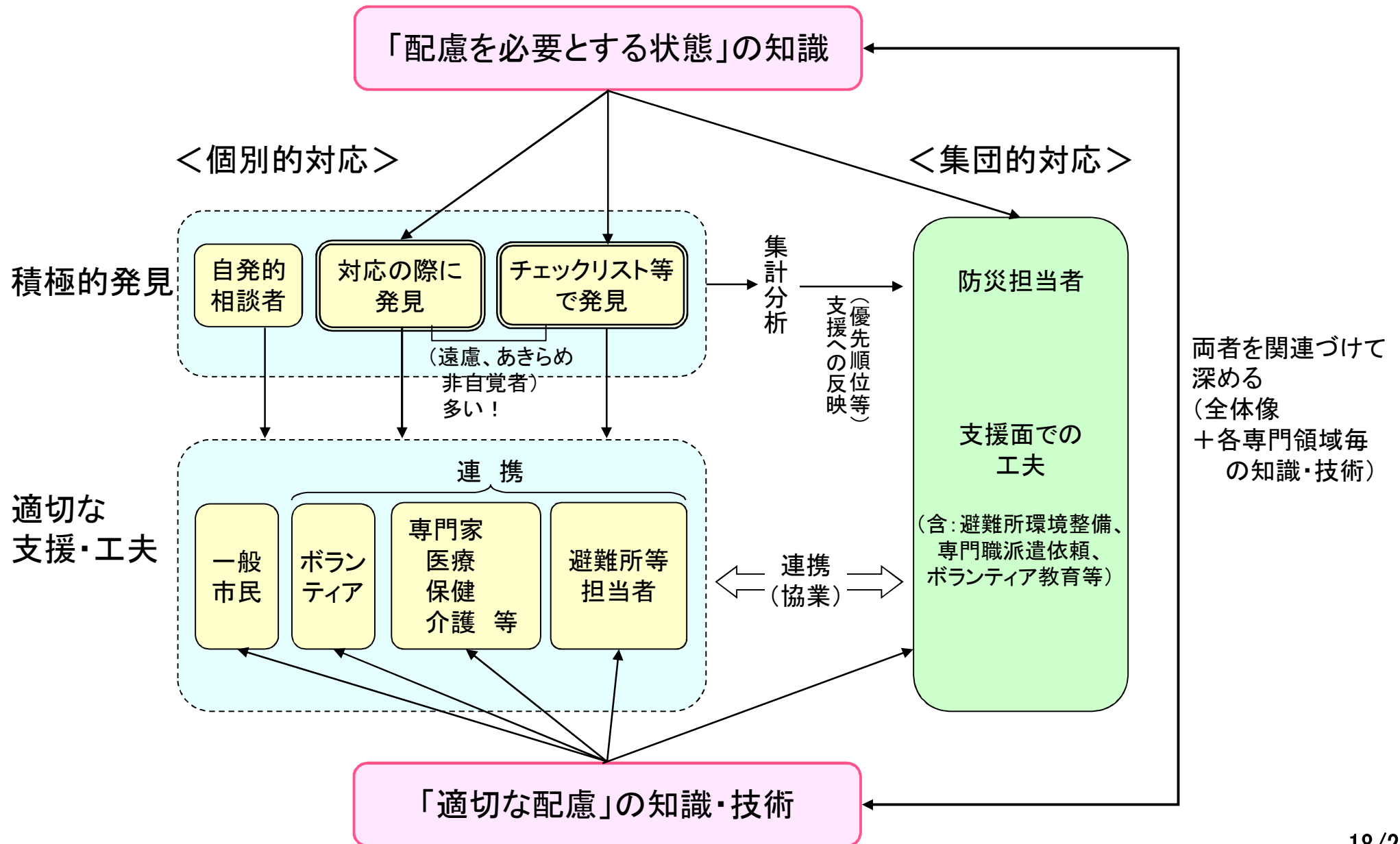
- 災害時特別な配慮が必要な人とは、**どのような「状態」をもつ人か**の観点からとらえる
 - ・ その「状態」から、支援する際に**配慮すべき内容**を考えやすい。
 - ・ **防災担当者、ボランティア、一般市民**にもわかり易い。⇒ 啓発必要
(障害者、高齢者などの総称では、具体的な状態や、配慮すべき内容は思い浮かべられない)
 - ・ 災害発生前から把握可能な人多い。
- 「特別な配慮を必要とする状態」とは、「**健康状態(病気・ケガ等)**」と「**生活機能**」の両面からとらえる。
- 「健康状態」と「生活機能低下」は**併存すること多い**。
「健康状態」は**災害を契機として悪化し易い**。
(特に、「B. 生活機能について配慮が必要な状態」で高齢の場合、介護を受けている場合(I-1)、
耐久性が低い場合(II-6)、精神障害(II-2、3)等)
※ 福祉避難所は“**福祉**”**主体との誤解**を招く危険。医療体制も十分あることが必要
- **積極的な把握が必要** ⇒ **状態把握チェックシート**等で
 - ・ 「手上げ」では不十分。また、専門職だから容易に見つけられるとは限らない。
 - ・ 外見からは、配慮の必要があることがわかりにくい人がいる。
 - ・ 本人が自覚症状がない場合もある。(特に健康状態については医学的専門的知識必要)
 - ・ 「災害時だから仕方ない」との**遠慮**や、平常時でさえ支援してくれないという“**あきらめ**”も多い。
 - ・ **複数の配慮**が必要な人も少なくない。

被災者の生活機能の階層構造

— 生活機能低下予防・向上の関係で —



「特別な配慮が必要な人」の積極的発見と支援



特別な配慮が必要な人－障害児・者の災害時についての不安(1)

- ・「災害が起きた時に心配なこと」を障害児・者に質問してみると、**機能障害によって差異**が認められた。「障害者」と一言でいっても実は災害時に配慮すべき状態は様々であることがわかる。
- ・「避難の通知が確実に伝わるか」は聴覚障害者、視覚障害者で多く、「避難所への移動」は視覚障害者、肢体不自由で多く、その他の精神障害、知的障害、発達障害等では「避難所生活の不安」であった。

災害発生時についての当事者の不安調査

複数回答
ICFに基づく障害児・者の生活機能の実態調査
調査協力47団体 N=4,919

	視覚	聴覚	肢体	心臓	腎臓	呼吸器	膀胱・直腸・小腸	精神障害	知的障害	発達障害	知的+発達	肢体+知的	高次脳機能	難病	全体
避難の通知の伝達	186 44.0%	119 60.7%	245 18.3%	19 23.2%	34 28.1%	30 24.8%	10 17.9%	239 34.7%	241 32.8%	94 35.2%	29 31.9%	35 25.9%	17 36.2%	22 22.4%	1488 30.3%
避難所への移動	313 74.0%	42 21.4%	782 58.4%	23 28.0%	32 26.4%	47 38.8%	4 7.1%	209 30.4%	272 37.1%	70 26.2%	31 34.1%	78 57.8%	15 31.9%	33 33.7%	2176 44.2%
避難所生活での不安	226 53.4%	79 40.3%	537 40.1%	29 35.4%	68 56.2%	27 22.3%	38 67.9%	251 36.5%	306 41.7%	163 61.0%	79 86.8%	79 58.5%	9 19.1%	50 51.0%	2143 43.6%
その他	39 9.2%	12 6.1%	105 7.8%	10 12.2%	50 41.3%	12 9.9%	15 26.8%	80 11.6%	49 6.7%	18 6.7%	5 5.5%	13 9.6%	2 4.3%	27 27.6%	502 10.2%
特になし	50 11.8%	37 18.9%	250 18.7%	24 29.3%	16 13.2%	34 28.1%	11 19.6%	146 21.2%	162 22.1%	47 17.6%	5 5.5%	17 12.6%	15 31.9%	23 23.5%	961 19.5%
計	423	196	1338	82	121	121	56	688	734	267	91	135	47	98	4919

特別な配慮が必要な人－避難所での医療・集団生活についての配慮を

- ・ 避難所生活についての不安の内容も機能障害による違いがある。
- ・ **医療面**での対応充実が必要(A-I)。
- ・ **集団生活**についての不安への配慮が必要(B-II-3)。
 ※ 集団生活という「環境因子」が「活動」・「参加」に与える影響を考える。「プライバシー」だけではない。
- ・ **避難生活を送る場所**についても「配慮が必要な状態」の**種類**によって考える必要あり。

避難所生活についての不安内容

複数回答

		視覚	聴覚	肢体	心臓	腎臓	呼吸器	膀胱・直腸・小腸	精神	知的	発達	知的+発達	肢体+知的	高次脳機能	難病	全体
活動	身の回り行為	80 35.4%	3 3.8%	263 49.0%	7 24.1%	8 11.8%	8 29.6%	28 73.7%	31 12.4%	29 9.5%	9 5.5%	3 3.8%	18 22.8%	1 11.1%	8 16.0%	545 25.4%
	移動(床上動作)	26 11.5%	0 0.0%	99 18.4%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.6%	3 1.0%	2 1.2%	0 0.0%	3 3.8%	1 11.1%	1 2.0%	152 7.1%
集団生活		15 6.6%	1 1.3%	42 7.8%	2 6.9%	1 1.5%	3 11.1%	0 0.0%	55 21.9%	116 37.9%	98 60.1%	54 68.4%	18 22.8%	1 11.1%	6 12.0%	435 20.3%
医療面の対応		10 4.4%	0 0.0%	72 13.4%	14 48.3%	52 76.5%	10 37.0%	18 47.4%	82 32.7%	22 7.2%	8 4.9%	3 3.8%	18 22.8%	1 11.1%	43 86.0%	412 19.2%
事例数		226	79	537	29	68	27	38	251	306	163	79	79	9	50	2143

「特別な配慮」の具体的内容(1): 食事

各支援内容毎に、どのような配慮が必要かを、「特別な配慮が必要な状態」から考えていく。
集团的支援(防災担当者)では、個人にとって「必要度」の高さと、必要な人の多さ、支援の容易さから実行する内容を決める。

配慮事項の避難所での例: 食事

－特別な配慮をはらう支援内容(例)－

- 特別な食事(治療用食事)
 - ・ 特別な治療食(先天性代謝疾患等)
 - ・ 食事療法用(高血圧(減塩食)、糖尿病食、腎臓病食、等)
- 食事形態
 - ・ ミルク(※哺乳瓶消毒)
 - ・ 授乳(※プライバシーに配慮した場所の確保)
 - ・ 離乳食
 - ・ 柔らかい食事、噛みきり易い食事
 - ・ 食材の温度等
- 食事動作の介助
- 食事の環境: テーブル・椅子
食事用スペース
- 衛生面
 - ・ 個人による弁当、菓子等食品の保管
- 食事の入手
 - ・ 食事配布の知らせが届く
 - ・ 列をつくって待つ

※飲水量・摂取量を制限(トイレ利用回数制限したくて)

－特別な配慮が必要な状態(例)－

- ← 病気のある人(食事療法中) [A-I]
- ← 新生児・乳児 [A-1]
- ← 摂食行為(かむ、のみこむ、等)に困難のある場合 [B-I-1、2]
※義歯使用者(義歯を持参できなかった場合)
- ← 高齢者(予備力低下している場合)等 [A-1~3]
- ← 食事動作に介助を受けている場合 [B-I-1]
- ← 食事動作が限定的自立の場合(限られた姿勢でのみ自立) [B-I-2]
- ← 食中毒予防 [A-III]
判断能力に困難のある場合 [B-II-2]
- ← コミュニケーションに困難のある場合 [B-II-1]
- ← 集団行動の遂行に困難がある場合 [B-II-3]
- ← 脱水症予防 [A-III]
(※排泄行為に困難のある場合 [B-I-1、2])

「特別な配慮」の具体的内容(2): 排泄

配慮事項の避難所での例: 排泄

— 特別な配慮をはらう支援内容(例) —

- 排泄方法(※プライバシーに配慮した場所の確保)
 - ・ オムツ使用者
 - ・ ストーマ(人工肛門、人工膀胱)
 - 排泄動作の介助
 - ・ 適切な排泄行動
 - トイレ内動作
 - ・ しゃがみ動作(洋式トイレのみ可)
 - トイレ内での移動
 - ・ トイレ入り口の段差
 - ・ トイレ内の広さ・トイレの配置
 - ・ ドアの開閉
 - トイレまでの移動(尿意・便意を感じてから間に合うか)
 - ・ 距離
 - ・ 歩き易さ(避難所内通路)
 - 衛生面
 - ・ 手洗いの実施:可能性
 - ・ 排泄物処理(含:オムツ、簡易トイレ)
 - トイレ利用の順番
 - ・ 列をつくって待つ
- ※ トイレの清潔感(不潔だと移動・動作に制限生じる)
※ 排泄時の音が外に聞こえる(遠慮して利用回数制限)
※ 生理用品の確保と廃棄

※ トイレ利用回数制限したくて飲水量制限

— 特別な配慮が必要な状態(例) —

- ← 排泄動作に介助を受けている場合[B-I-1]
- ← 排泄動作が限定的自立の場合(限られた方法でのみ自立)[B-I-2]
- ← 排泄に介助を受けている場合[B-I-1]
- ← 判断能力に困難のある場合[B-II-2]
- ← トイレ動作が限定的自立の場合(限られた姿勢でのみ自立)[B-I-2]
- ← 移動に困難がある場合(歩行困難、車いす使用)[B-I-4]
- ← 食中毒予防[A-III]
- ← トイレ動作に介助を受けている場合[B-I-1]
- ← 集団行動の遂行に困難がある場合[B-II-3]
- ← 脱水症予防[A-III]

「特別な配慮」の具体的内容(3): 屋外歩行

- ・ 屋外歩行の支援が必要な人が多い。
- ・ 限定的自立(近くなら一人で歩いている)が4割強。
⇒ 災害時には道路等の変化のため、**さらに歩行しにくくなる**可能性あり。
- ・ 「ほとんど外は歩いていない人」が8.0%。
- ・ 「誰かと一緒なら歩いている人」が5.8%。
⇒ 介助者が復旧作業で忙しく、**歩行支援の機会減少**の可能性あり。

屋外歩行の状況

非要介護認定高齢者
5自治体(回収率73.6~99.2%:平均80.9%)

	65-74歳			75-84歳			85歳以上			総計
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	
遠くでも一人で	1227 60.3%	1408 54.1%	2635 56.8%	1428 42.2%	1587 32.4%	3015 36.4%	143 23.1%	186 15.6%	329 18.2%	5979 40.6%
近くなら一人で	604 29.7%	947 36.4%	1551 33.4%	1425 42.1%	2473 50.4%	3898 47.0%	307 49.6%	636 53.3%	943 52.0%	6392 43.4%
誰かと一緒なら	60 2.9%	111 4.3%	171 3.7%	163 4.8%	345 7.0%	508 6.1%	50 8.1%	119 10.0%	169 9.3%	848 5.8%
ほとんど外は歩いていない	122 6.0%	104 4.0%	226 4.9%	287 8.5%	360 7.3%	647 7.8%	96 15.5%	209 17.5%	305 16.8%	1178 8.0%
外は歩けない	2 0.1%	2 0.1%	4 0.1%	11 0.3%	17 0.3%	28 0.3%	4 0.6%	9 0.8%	13 0.7%	45 0.3%
回答なし	21 1.0%	29 1.1%	50 1.1%	68 2.0%	121 2.5%	189 2.3%	19 3.1%	34 2.8%	53 2.9%	292 2.0%
合計	2036 100%	2601 100%	4637 100%	3382 100%	4903 100%	8285 100%	619 100%	1193 100%	1812 100%	14734 100%

「特別な配慮」の具体的内容(4): 避難所内移動

- ・ 自宅内で壁や家具を伝わって歩いている人(伝い歩き)が1割。
 - ・ 広い避難所では伝い歩きは困難。
 - ⇒ 避難所内での生活場所と通路の配慮。「よくする介護」。実用歩行指導(実生活の中で)。
 - ＜禁＞歩行が不安定だと、すぐに車いす。
 - ・ 支援品に車いすはあっても杖はほとんどない。体育館の床は滑りやすい。

自宅内歩行の状況

非要介護認定高齢者
5自治体(回収率73.6~99.2%:平均80.9%)

	65-75歳			75-84歳			85歳以上			総計
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	
何もつかまらずに	1888 92.7%	2326 89.4%	4214 90.9%	2956 87.4%	4000 81.6%	6956 84.0%	461 74.5%	796 66.7%	1257 69.4%	12427 84.3%
壁や家具を伝わって	100 4.9%	200 7.7%	300 6.5%	285 8.4%	636 13.0%	921 11.1%	107 17.3%	273 22.9%	380 21.0%	1601 10.9%
誰かと一緒なら	13 0.6%	32 1.2%	45 1.0%	37 1.1%	95 1.9%	132 1.6%	13 2.1%	37 3.1%	50 2.8%	227 1.5%
ずり這い等で動いている	2 0.1%	4 0.2%	6 0.1%	8 0.2%	17 0.3%	25 0.3%	6 1.0%	21 1.8%	27 1.5%	58 0.4%
自力では動き回れない	8 0.4%	3 0.1%	11 0.2%	33 1.0%	34 0.7%	67 0.8%	17 2.7%	34 2.8%	51 2.8%	129 0.9%
回答なし	25 1.2%	36 1.4%	61 1.3%	63 1.9%	121 2.5%	184 2.2%	15 2.4%	32 2.7%	47 2.6%	292 2.0%
合計	2036 100%	2601 100%	4637 100%	3382 100%	4903 100%	8285 100%	619 100%	1193 100%	1812 100%	14734 100%

「特別な配慮」の具体的内容(5):コミュニケーションへの配慮

- 歩行が困難な理由として「耳が聞こえにくい」6.8%、「目が見えにくい」4.9%。
「コミュニケーションに困難のある場合」のうち聴覚障害、視覚障害として多いのは、高齢者のこのような軽～中等度の人である。「視覚障害－全盲」、「聴覚障害－ろう」だけではない。
- 「コミュニケーションに困難のある人」では情報伝達以外の面でも配慮を要する。

歩行困難の理由(複数回答)

非要介護認定高齢者
5自治体(回収率73.6～99.2%:平均80.9%)

	65-74			75-84			85-			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
足の関節の痛み	185 9.1%	445 17.1%	630 13.6%	452 13.4%	1255 25.6%	1707 20.6%	119 19.2%	286 24.0%	405 22.4%	2742 18.6%
足の力が落ちた	181 8.9%	218 8.4%	399 8.6%	609 18.0%	1032 21.0%	1641 19.8%	232 37.5%	397 33.3%	629 34.7%	2669 18.1%
腰痛	170 8.3%	327 12.6%	497 10.7%	411 12.2%	1090 22.2%	1501 18.1%	93 15.0%	240 20.1%	333 18.4%	2331 15.8%
歩く速さが遅い	103 5.1%	181 7.0%	284 6.1%	385 11.4%	891 18.2%	1276 15.4%	136 22.0%	254 21.3%	390 21.5%	1950 13.2%
疲れやすい	110 5.4%	209 8.0%	319 6.9%	385 11.4%	827 16.9%	1212 14.6%	126 20.4%	230 19.3%	356 19.6%	1887 12.8%
つまづきやすい	74 3.6%	108 4.2%	182 3.9%	293 8.7%	641 13.1%	934 11.3%	102 16.5%	219 18.4%	321 17.7%	1437 9.8%
耳が聞こえにくい	54 2.7%	47 1.8%	101 2.2%	230 6.8%	354 7.2%	584 7.0%	98 15.8%	219 18.4%	317 17.5%	1002 6.8%
ふらつく	37 1.8%	59 2.3%	96 2.1%	181 5.4%	327 6.7%	508 6.1%	81 13.1%	156 13.1%	237 13.1%	841 5.7%
目が見えにくい	51 2.5%	77 3.0%	128 2.8%	121 3.6%	299 6.1%	420 5.1%	45 7.3%	133 11.1%	178 9.8%	726 4.9%
その他	29 1.4%	25 1.0%	54 1.2%	72 2.1%	97 2.0%	169 2.0%	15 2.4%	32 2.7%	47 2.6%	270 1.8%
計	994 48.8%	1696 65.2%	2690 58.0%	3139 92.8%	6813 72.0%	9952 120.1%	1047 169.1%	2166 181.6%	3213 177.3%	15855 107.6%